

入れちやいけませんよ、ちや行つて來ますよ」

仔「行つていらつしやアーい」

お母さんは籠を下げてかくれる。

衝立を仔山羊達の前におく。

狼、衝立のかげにしががむ。太い聲で、

狼「トンく、トンく、お母さんが歸りましたよ」

姉「お母さんはそんなきたない聲ぢやありませんよ」

狼、藥屋（少し離れて椅子に腰かけてゐる）に行つて、藥

をのむ真似する。

狼「トンく、トンく、お母さんが歸りましたよ」

姉「手をお見せ」

狼、衝立の上からニウツツ手を出して見せる。

姉「お母さんのお手々はもつこ白い」

狼、粉屋で粉をぬるまねをする。

「トンく、トンく、お母さんが歸りましたよ」

観 察

一同「ああ嬉しい、お母さんよ」

衝立を横にやる。

狼「ワァーツ」云つて、仔山羊達を追かけ乍ら、狼は一緒に室のすみに隠れる。それに大きい風ろしきを被せておく。仔山羊一匹だけ長椅子のかげにかくれる。

母山羊歸つて來て、これを見て泣まね。仔山羊大きな鉢を持つてゆき風呂敷を見つける。鉢で切るまねをする。中から一匹づつ、お母さん、お母さんミミびつく。

幾度か繰返してゆく中に、先生の手傳ひが無くても、出來るようになるさいよく面白くなる。なるべくきの子にも役が當るよう三度位配役をかへて演出する。従つて見物にまわる多數があるわけで、是等は椅子に腰かけて、靜かに友達の演出を見物する。あく迄も見せるので無く、遊ぶのであるからその意味で。雨の日の室内あそびにぞくいと。

第一週

カレンダー

カレンダーを作るについて種類をいろいろ用意してみんなの作りうか相談し乍ら観察させる。(誘導保育の欄参照) カレンダーにかいてある字、それは何をいみするかを話す。一月から月を追ふて、その月々の行事なき思ひ出させて、カレンダーにかいてあるこゝを理解させる。

國旗

今更らしくこゝに掲げる迄もない。日の丸はよくみてる筈であるが一度正しくかゝしてみる事もよい。又日の丸だけでなく、他の名の親しい國の旗も繪によつて観察させる。

第二週

みかん(前出)

第三週

霜柱

お庭は霜柱が毎朝一ぱい立つ。さくくふみくだく音こ

感の快さを先づ味つたらその一片をまつて細い氷の柱の集つたものであるこゝをみる。さうして出来るかをきかれても確實にわかり易く答へられる様に考へて置かう。我々にしても斯くも美しく、自然の一夜の仕事に感心するものの子ども達はさんなにかふしぎであらうから。

水仙

ぬりゑをする時切花を出来るなら用意して観察させつゝぬらせる。殊に花びらの數、特徴ある副冠(花の中のきいろい盃状のもの)を注意しやう。石蒜科植物である。

第四週

汽車(繪による)

繪による観察は前にも度々出て來たがこれでは子ども達に實物さしても親しみ深く、我々以上によく観察してゐるものであるからごく新しい型のものも用意し、種類も多くして、完全な可成り科學的な繪をもつて來て観察させた方がよい。

冬の芽

冬でも木は枯れてゐないこき、もうこんな立派な葉を用意してゐるこきを葉の落ちたあきをみたのを思ひ出させ乍

手 技

第一週

自由畫 一回

ぬりゑ 一回

フクジュサウ

お正月の鉢植の福壽草があれば實物を見てぬらせる

製作 カレンダー

用紙は畫用紙でも、模造紙でもよい。又カレンダーの作り方も、日めくりでもよいし、月カレンダーでもよい。

幼児一人／＼の所有になるやうに、各自に一つ宛させてもよいし、又お部屋用の一つ作つてもよい。

1より31までの數字を一枚に一つ宛かいてその一枚一枚に數字をよけて自由畫をかゝせる。各自が一つづゝのカレンダーを作るときは普通のカレンダーの大ききでよいの

ら觀察させる。種々な木の芽について比較する。自然のたゆみなき營みを觀察させ度い。

であるが、お部屋に一つ吊す様にするには一枚の紙の大きさは畫用紙十六切位の大ききにするこよい。そしてそれは一枚一枚めくらないで後へはねのけておく様につくる。1から12までのものを一／＼りこし、又1より31までを一／＼りこして、二／＼並らべて前者は月をあらはし、後者は日をあらはすこきゝする。

第二週

自由畫 動物

参考用として、動物の寫眞、動物畫なき保育室に用意してよくこれを觀察させる。幼児の自由に種々の動物をかゝせて見る。

ぬりゑ ウメノモヤウ

ウメノモヤウは色を自由にぬらせる。